

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を作成し掲示している。	○ 今後も掲示していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティング及び業務の合間等を利用してスタッフ全員が意思統一して業務ができるように確認を行っている。	○ 今後もミーティング、ミニカンファレンスを行っていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会はまだ実施していないが今後計画をしていく。家族への説明は面会時に行い理解をお願いしている。地域へは現在、2ヶ月に1回運営推進会議を設けておりその中で説明を行っている。	○ 家族会の実施に取り組みたい。運営推進会議については今後も継続して続けていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議の中で現在、どういう形で取り組めば良いのか地元の民生委員、区長を交えて検討している。	○ 近所の方が自由に出入りできるように取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在のところ活動はしていない。	○ 運営推進会議の中でどのような形での参加なら可能か検討し今後実践していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	福祉の業務に従事している経験を活かし地域の方から介護相談等があればその都度対応をしている。	○	介護施設として地域の中での介護相談等を行ってきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価。	○	今回が初めての外部評価になるため今回の評価を活かしてホームが良い運営をしていけるよう取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年より運営推進会議を2ヶ月に1回実施している。そこであげられた意見は運営の中で活かすよう心掛けている。	○	今後も会を行っていくことでホームの取り組みについて意見を頂き、サービスの向上に活かしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ連絡、相談は行っている。	○	今後も行っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の状況等に応じて検討している。また、家族側から申し出があった際は活用の手伝いを行っている。	○	現在までに権利擁護事業の利用が1件、青年後見人制度の相談、手続きの支援を1件行っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加している。ホーム内でも虐待が起きないように周知徹底している。	○	家族には虐待を絶対起こさな旨、重要事項の中でも説明している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との話は蜜に行っている。理解を頂いているものと考えている。	○ 入居前より入居後の対応についてまで家族と話し合いを行い、グループホームでの生活継続が困難となった場合でもスムーズに次の施設への引継ぎが出来るように対応を行っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関窓口や重要事項説明書に苦情相談担当者が明記されている。	○ 家族面会時にはスタッフから家族に声かけを行い意見や苦情を聞くことに努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の暮らしぶりや、受診状況の報告を行っている。	○ 定期的にお便り等の発行を今後行っていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明で苦情連絡先を説明している。また、意見箱をホーム入り口に準備している。	○ ご意見、苦情等があった場合は真摯に受け止め適切な対応を行う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務中の空き時間に意見を聞き簡単に対応ができるものであれば直ぐに取り入れる。また、時間をかけ検討した方がよい意見であればスタッフミーティングを行い反映させている。	○ 自由に意見を出せるような雰囲気作りを行っていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事及び利用者の状態等に応じて可能な限り対応をしている。	○ 状況に応じて対応している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他にも系列の事業所を抱えているため異動はやむを得ない。	○ サービスのマンネリ化を防ぐため、法人内の交流を推進していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	全スタッフ、認知症ケアの専門家として職務して頂くため職場内、職場外の研修には参加をさせている。	○ 今後も積極的に参加をしていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会への参加及び関係機関等の勉強会への参加。また、市内の事業所との情報交換等を行っている。	○ 今後も積極的に交流の機会を持っていく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	福利厚生は充実しており、定期的に慰労会の実施を行っている。また、上司は部下の相談等に努めている。	○ 今後も継続していく。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	年1回の人事考課の実施を行っている。また、職員が向上心を持って職務できるように相談等を行っている。	○ 今後も継続していく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居相談時に本人の状態、家族の状況等を十分に聞き取りを行っている。	○ 入居相談時に本人、家族のニーズを十分伺うように心掛けていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	本人、家族が安心してサービスを利用できるように今までの苦労話を十分に伺い理解をした上で今後の対応等について相談を行っている。	○ 今後も聞き手をしっかり務め本人、家族に安心してもらえるように努力する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に本人の状況、家族の意向を伺った上でグループホーム入居以外の対応も検討をした方が良いと考えられるケースについては説明を行い、必要によっては他のサービス機関の紹介や繋ぎを行っている。	○	今後も継続していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居することにより急激な環境変化が生じ不安定になりやすいと考えられるケースについては施設に馴染んでいただくための機関を設けたり、入居後も家族等が気軽に施設に泊まっても大丈夫であることを説明し対応を行っている。	○	本人の状況を考慮しながら家族と相談の上対応をしていく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは業務だけをこなすのではなく利用者や家族等と話をする時間を作るように指導している。	○	会話の中からその人らしさを見つける努力を行っていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設の開設から1年ちょっとであるため家族との関係が十分と言えないところはあるが、入居時、面会時等に家族の役割についてのお話しを行い協力をお願いしている。	○	家族の状況等を十分考慮した上で家族が出来ることを相談し協力をお願いしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前までの本人と家族の関係について十分な情報を得た上で入居後も本人の希望と家族の事情を伺い本人と家族の関係が切れることがないように努めている。	○	今後も継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際には施設入居後に本人にとっての馴染みの関係の多くは途切れてしまう状況であるが家族の協力や他のサービスの利用により対応が出来そうなものについては継続できるように支援している。	○	今後も継続していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人一人の性格、考え方も違うので個性を十分に尊重するように心掛けてはいる。	○	利用者の個性に合わせた対応を今後、心がけていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談等があれば気軽に対応をするようにしている。	○	今後も継続をしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の意向、希望はもちろん入居後も普段の本人の言動等から本人の気持ちを理解するように努めている。	○	日常、本人と接した時に些細な言葉でも気をつけて聞くように心がけていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に十分な情報収集に努めている。	○	今後も継続していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康状態や普段の生活の状況等を観察し本人の状態を十分把握するようにしている。	○	今後も継続していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者が一同に会して協議するのは難しいが、必要な方には意見を聞きそれを取り入れながら計画を作成している。	○	今後も関係者の方には意見を聞きながら本人に合ったプランが作成できるよう努力していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じてのプランの作成は行っているが、業務に追われることが多く変化が生じた時のプラン変更は対応が先になっていることが多い。	○	業務が煩雑であるため状況的には難しいが早めの対応を行うよう努力していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェックや食事、排泄チェック、個別記録は毎日記載している。介護計画には反映させている。	○	今後も継続していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の対応としては状況的に困難な状況。家族の協力や地域資源を活用しての対応を行っている。	○	個別の外出支援等を実施するには人的余裕がなく対応は困難。それに変わるサービス等にて対応をしていく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	開設してから1年弱であるため地域との関係作りはこれからのところがある。運営推進会議等にて助言をいただきながら関係作りを行っている。	○	早く地域との連携が出来るように努力していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームのケアだけで対応が難しい分野については他の関係機関に相談を行い対応している。	○	今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加をして頂いている。必要に応じて協力を頂いている。	○	今後も継続していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を伺い希望の掛かりつけ医への受診を行えるようにしている。	○	今後も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	今後も継続していく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後も継続していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	今後も継続をしていく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	希望がある場合は対応をしていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	必要時には連携を取り対応を行う。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	今後も継続をしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフには常に指導を行っている。	○ 今後も継続をしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思を尊重しながら本人の能力に合わせ説明を行っている。	○ 今後も継続をしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人なりの時間の過ごし方を優先した支援を行うよう努力している。	○ 利用者本位に生活が出来るよう今後も支援をしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	普段の生活の中で更衣の際には気をつけている。本人の望む理美容店を望む場合は家族に依頼をしている。	○ 今後も継続していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容については季節にあったものや利用者の希望を取り入れながら献立を立てている。調理等の手伝いについては能力的に可能であれば手伝って頂いている。	○ 今後も継続していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙については施設の方針により禁止。飲酒については行事の時にお出しする程度。現在のところ飲酒、喫煙を希望される利用者の入居がない。	○ 喫煙については今後も禁止の方向。飲酒については希望される利用者の入居があれば検討する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握して対応をしている。	○	今後も継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、週3回実施。個別の対応は利用者の心身の状態にもよるが現在は行っていない。	○	現在、個別の希望はないため現状の回数で対応していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ある程度、自分で管理できる方については健康に支障がない限り本人本位に任せている。	○	利用者の状態に合わせて対応を行う。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の聞き取りと入居後の本人の様子を見ながら支援を行っている。	○	今後も継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の問題もあるため全利用者には行っていない。家族に紛失の危険性を説明した上で持たせることに同意のある方については小額のお金を持たせることもある。	○	紛失の危険性があるため難しい問題。今後、どう対応していくか検討していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	離設事故の問題もあるため認めていない。運営推進会議の中でも議題になっており意見を聞きながら検討している。	○	事故防止が確実にできる対応が出来るまでは認めない方針。今後、どう取り組むか検討していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在は家族の対応でお願いしている。	○	施設としては人員の問題もあり対応は困難。家族対応でお願いしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応をしている。	○	今後も継続していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けてあるがご家族等のご都合もあるため連絡を頂ければ対応している。	○	今後も継続していく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命の危険性等の重大な問題がない限り行わないものとして重要事項説明で家族に説明している。もしやむを得ない場合は状況の記録を行い、家族に説明し同意を得るものとする。	○	今後も継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去に離施者があり敷地外へは出れないようになっている。建物から庭に出るのは午前9時から午後5時までの間は玄関の施錠は開放してあるので庭に出ることは可能。	○	敷地が広過ぎて通常のスタッフ数では目が行き届かない。近くに交通量の多い道路があるため事故防止のため現在、鍵を開放することは考えていない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の状態には常に気を配り、安全に過ごせているか見守りを行っている。	○	利用者の安全が保たれるように支援していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	金銭については家族の同意を得て小額であれば本人に持たせることもある。他に注意が必要と思われる物品がある場合は家族と検討して対応を行っている。	○	本人、家族の希望を踏まえ対応が可能か検討して対処していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会に参加することで知識習得には努めている。また、不慮の事故を起こさないようにスタッフ同士で確認し合うよう取り組んでいる。	○	スタッフの質の向上に努め事故を起こさない対応が出来るよう今後も取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホームの看護師や訪問看護スタッフからの指導及び研修会等に参加して知識習得に努めている。	○	今後も継続していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災機器の点検、避難場所の確認は行っている。地域との連携については運営推進会議の中で協議している。	○	今後も継続していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面会時等に本人の現状を伝え、想定されるリスクについては説明を行って理解を頂くよう話している。	○	今後も継続していく。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の状態観察は欠かさず行っており、異変の発見に努めている。主治医や協力医療機関との連携も出来ている。	○	今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については処方時に頂く説明書をカルテに閉じ、スタッフが今、どのような薬を服薬しているかを確認できるようにしてある。処方変更時は変更内容をカルテに記載し状態変化が起きていないか確認するように指導している。	○	今後も継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認は毎日確認をしている。便秘気味の利用者には対応を行っている。	○	今後も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては出来るだけ毎食後に行っている。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックは毎食後に行い、低栄養の危険性はないか確認している。また、水分量についても本人の状態を見ながら調整するよう心掛けている。	○	今後も継続していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内にマニュアルを作っている。また、個別対応が必要な場合は計画を立て実行している。	○	今後も継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に使用する道具等については清潔にするよう指導している。食材についても新鮮なうちに消費できる量のみを購入。	○	今後も継続していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族、近隣の方の出入りに特に制限は設けていない。また、近隣の方たちが集会等で使ってもらってもいいようになっているが宣伝不足で利用は少ない。	○	近隣の方が自由に利用してもらえるように宣伝していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型のグループホームで空間も広い。利用者、家族、見学者からは好評を頂いている。	○	使い勝手について意見があれば対応を行っていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんそれぞれに好きな場所で過ごされている。	○	現在のところ利用者からの不満はなく対応ができていると思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族にはグループホームの趣旨を十分に説明し、本人が家で使い慣れた物をできるだけ準備して頂くよう説明している。	○	利用者が今までの生活とできるだけ変わらず生活できるように家族に今後も説明をしていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気には気を配っている。温度調整についても小まめに行っている。	○	今後も継続していく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改造型のため段差があるが手すり、スロープ等を設置し安全に生活できるよう配慮をしている。	○	利用者に不自由がないように環境面については可能な限り整備を行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	スタッフ側から指示をするのではなく、利用者ができるだけ自分の意思、考えで行動が出来るように見守りを中心とした対応を行っている。	○	利用者の特徴を尊重したケアが出来るように努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭が広く散歩や草取り、家庭菜園等で過ごすことが出来る。	○	今後も継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居利用者が健康的で安全に過ごせるように支援することはもちろん、ここでの生活が安心して過ごせる場所であるように支援していくことに力を入れています。